



Via Latina 22

2020年9月－10月 293号

総本部よりのお知らせ－マリア会

東アフリカ地区での初誓願式



左より:マリア会のTimothy Phillips士、Erick Otiende士(副地区長)
Jackson Nkole Sampa士、Thomas Mwenenjawa士、
Gabriel Kirangah師(地区長)、Joseph Mwaura師(修練長)、
Emmanuel Shaba(修練者)

おとめマリアの被昇天の祭日は東アフリカ地区にとって特別な喜びの時でした。Thomas Benton Mwenenjawa士がその日、ケニヤ リムルの修練院聖堂でマリア会の初誓願を宣立しました、そして、同日Jackson Nkole Sampa士が有期誓願を更新しました。

Thomas士が、“今日は、私にとって新たな出発の日です、深い喜びと感激の日です、神およびその愛と優しさを頂く日です、福者ギョーム・ヨゼフ・シャミナードの導きの下に主の

使命を全力で追い求める事を受け入れる日です”と言ったように、この日は彼にとって今後長きに亘り心に残る日となるでしょう：

マリアニスト修練院共同体メンバー、東アフリカ地区長、ガブリエル・キランガ師、そしてナイロビの3つのマリアニスト共同体の代表者たちが、現在のコロナ禍の中で、14名の参加者でした。ガブリエル師は、説教のはじめにヨハネの黙示録の一節を引用し、巨大な竜が空の星3分の一を掃き集める時でも私たちのために神の配慮とご加護があることをお示して、聖母の被昇天の意味について説教されました。ガブリエル師はまた彼らの誓願を受け入れました。

この地区では初めて、誓願式がマリアニスト召命のフェイスブックを通して生中継され、他の人たちが霊的・バーチャル的に参列出来ました。慣例によって、式典の後に家族的食事が供され、ケーキカットの儀式で終了しました。ケーキはまたナイロビの共同体に送られ、彼らもまたこの喜ばしい機会の味わいを分かち合うことが出来ました。

USAでの司祭叙階式



左より:マリア会のBrandon Paluch師とMichael Chiuri師

2020年8月22日土曜日、天の元后聖マリアの祝日に、USA管区はセントルイスの“柱の聖母小教区”でのミサ聖祭の中で、Michael Chiuri師とBrandon Paluch師の司祭叙階式を執り行いました。

カリフォルニア州、オレンジ教区長Kevin W. Vann司教がミサ聖祭を司式し、彼が長年に亘って知っている数名のマリアニストに言及する極めて私的な説教を行いました。マリア会USA管区長Oscar Vasquez師と霊生部長Timothy Kenney師が主な共同司式者を務めました。

コロナウィールス感染拡大を予防するため、式典に実際出席する人数は、マスクを付けソーシャルディスタンスを守った家族メンバー、友人たち、マリアニスト共同体メンバー等75名

に限られました。しかしながら、世界中の1000名以上のマリアニスト家族メンバー友人たちが叙階式にバーチャル的に出席することが出来るよう、叙階式は生放送されました。

Miguel Ángel Cortés師がマリア会の新たな総代理に就任



総長は彼の評議員会の同意を得て、Miguel Ángel Cortés師をマリア会の新たな総代理として任命しました。彼の2名の前任者、Francisco Canseco師とLorenzo Amigo師が行ったように、神学校校長に加えて、彼はこの任務を引き受けることとなります。私たち全員のためにこの重要な役目を引き受けられたことに対して、Cortés師に感謝します。

「生活の規則」が指摘しているように、“総代理は、総長の指示の下に、聖座との公的關係においてマリア会を代表します” (RL 7.67)。いつでも総本部、あるいは行政単位の側からの要望や情報を聖座に伝える必要がある場合がそれです。その手続きはかなり多岐にわたります：文書の証明、重要な財務活動のための承認、誓願の免除等。この仕事はしばしば、かなり専門的なものではありませんが、明確であり、時には難しい具体的な司牧の状況に関係しています。このように、これらのコミュニケーションを巧く扱うことが重要です、なぜなら、その影響は会員たちあるいは行政単位にとってしばしば重要だからです。この任務は、その役割として、私たちの修道会と聖座の間の良好な関係を築くのに貢献します。私たちが彼に寄せる信頼の故にMiguel Ángel Cortés師におめでとうを申し上げ、そして彼の寛容な受諾に感謝します。

私たちはまた過去9年間に亘り忠実にそして正確にこの任務を果たしてこられたFrancisco Canseco師に感謝します。



世界マリアニスト祈りの日 - 2020年10月11日



もう一度お伝えします、全世界のマリアニストは毎年の世界マリアニスト祈りの日にバーチャル的に或いは本人が直接に集まり祈ります。今年の集い10月11日、日曜日に行われます。いつものように、この祈りは全ての枝、国、そして文化のマリアニストを霊的に結び付け、その子供たちのために執り成してくださるよう私たちの御母マリアに祈ります。“エルサルト聖母”の敬称の下で、私たちが一緒にマリアの優しい配慮を祈願する時、この一致は強められるでしょう。“エルサルト聖母”というこの敬称は、エクアドルのラタクンダの信者たちの特別な信心と関係しており、そこで幾つかの枝のマリアニストたちが長年に渡り奉仕活動を行ってきました。

“エルサルトの聖母”の画像と聖地に関する大変興味深い歴史の要約版はwww.marianist.orgで読むことが出来ます。それは大変興味あ

る逸話ですが、同時に、一つの文化全体がおとめマリアの注意深い保護する眼差しの下に留まる信頼が表れている物語でもあります。コトパヒの活火山に怯え、また地震を受けやすい地域にあって、エルサルトの聖母はあれこれの自然災害から人々を守るために呼び求められています。

今年は、ご存じのように、世界はCOVID-19というもう一つの自然災害で揺さぶられてきました。至る所で全ての人々の生命がこの感染拡大の悲劇的な影響に耐えてきましたが、その事態はまだ続いています。ですから、マリアニスト世界全体を通して、私たちは祈りのうちに集まり、力と勇気、そして災難の終息をおとめマリアに祈願するのは時宜に適っています。エルサルトの聖母の画像と伝統を通して、この熱い祈りのうちに、エクアドルの人々と心を一つにしましょう。

上に述べたwebサイトで、この年間行事の式典について種々提案がなされています。私たちは、あらゆる可能な方法でこの機会を特別に記念するよう、全ての共同体にお勧めします。もし物理的に他の共同体、或いは他の枝と一緒に集まれなくても、皆さんが霊的にそしてバーチャル的に祈りの中で一緒になれますよう願っています。

エルサルトの聖母、私たちのために祈りください！



世界的な教育協定の再建：教皇の呼びかけ

2019年9月12日、教皇フランシスは“世界的な教育協定の再建”のために次のような言葉で声明を発しました。

“私の‘Laudato Si’回勅で、私は全ての人に私たち共同の家を維持するために協力し合い、また、私たちが直面している難題に共に立ち向かうよう促しました。数年経った今、私たちは今この地球の将来の方針をどのように打ち立てつつあるのか、また、各々のタレントを活用する必要性について話し合うよう、私は自分

の招きを新たにいたします。なぜなら、あらゆる変化が新たな世界規模の連携と、より温かみのある社会を目指す教育的なプロセスを要求しているからです。この目的のために、私は2020年5月14日に行われる世界的行事を支持したいと思います。この会議は、忍耐強い傾聴、建設的な対話、そしてより良い相互理解を含むより開放的で包括的な教育への私たちの情熱を刷新して、若者たちのための、また彼らと共に行う私たちの献身を再活性化するでしょう。幅広い教育的協調の面で私たちの努力を結集し、分裂や対立を克服出来る成熟した人々を育成し、また、より兄弟愛に満ちた人類を目指した網の目のように結ばれた関係を修復するこのような必要性は、これまで一度も存在しませんでした”。

(次のホームページで全体のメッセージを読んでください)

http://www.vatican.va/content/francesco/en/messages/pont-messages/2019/documents/papa-francesco20190912_messaggio-patto-educativo.html



Covid-19の感染症拡大のために、この国際的動員は最初に計画されていた日程で行うことが出来ませんでした。より幅広く、後顧の憂いのない参加を可能にするために、この会議は2020年10月15日に延期されました。教皇がカトリック教育省に計画するよう要請していたこの会議は、基本的にはバーチャルで行われるでしょう。しかし、教皇フランシスコは、直接意見交換するために、主要な宗教の代表者たち、国際機関の指導者たち、種々の人権擁護協会、大学界、経済界、政界と文化界の人々をバチカンに招きました。

基本的に教育に携わる修道会であるマリア会は、この行事に特別に気を配ります。私たちはこの行事を祈りのうちに心に留めるよう、また起きていることを見出すために注意深くあるよう、全会員に勧めます。これは今日、かつてよりももっとタイムリーな行事です：教育が平和と正義を作り出すことが出来るよう、全ての努力が結集されなければなりません。

更なる情報が必要な場合、次のwebsite世界的な教育協定を検索ください。

<http://www.educationglobalcompact.org>

20年前にシャミナード神父は列福されました



私たちは皆、シャミナード神父の取り次ぎによる奇跡が認められたとの発表に接して、全マリアニスト家族を虜にした感激を思い出します。2000年9月3日に行なわれた今は聖人となられたヨハネ・パウロ二世による彼の列福の式典は、重要な出来事でした。シャミナード師はマリアニストからだけではなく、今や教会全体を通して祝われ、祈願されます。彼の生涯のメッセージと模範の有する本物の聖性は、教会によって承認され、そして全てのキリスト信者に示されました。私たち一人ひとりにとって、この列福20周年記念日は次の事を思い起こす機会です：このお恵みは私の生活と宣教活動において何を変えたのか？それは私たちの創立者にもっと近づくのにどのように私を助けたか？私は他の人たちにシャミナード師をどのように紹介したのか？そして今、マリアニスト家族の2人の創立者は二人とも福者となっています。私たち皆にとって、この事からどんな新しい呼びかけが生じたのでしょうか。これらの賜物をよく意識するようになることは、私たちがこの記念日を祝う助けとなるでしょう。この効果を列福の記念日さえも越えて拡大しましょう。それは全てより大きい果実をもたらすようにするためです。やがて彼の列聖をお祝いする喜びを得るために、私たちは福者の執り成しに対して新たな意向を委ねることも忘れてはならないでしょう。

終わりにあたり、列福式のミサで聖ヨハネ・パウロ二世によって発せられた幾つかのお言葉をもう一度考えてみましょう：

マリアニストの創立者、ギョーム・ヨゼフ・シャミナード師の列福は、特に教会から離れている人たち、またキリストを知る通常の方法を持たない人たちに手を差し伸べるために、信仰を証しするこれまでにない新たな手段を見出すことがその任務であるということを、信者に思い出させます。(…)

人間的、道徳的、かつ宗教的な教育への彼の関心は、若者たちが主に立ち帰り、教会の宣教において自分たちの役割を果たすために、教師と証し人の両方を必要とする彼らへの教会の配慮を新たにしよう、教会全体に訴えています。

注意してください！

(Miguel Ángel Cortés師の総本部での新しいメール・アドレス)

rettore@smcuria.it (シャミナード国際神学校)

procuratore@smcuria.it (総代理として)

最近の総本部通信

- 訃報：17-28号
- 9月2日：マリアニスト連帯と養成資金についての書簡、財務局長、Michael McAward士から3か国語でマリアニスト行政単位の責任者と財務補佐に送付
- 9月4日：世界マリアニスト祈りの日-2020年10月11日、世界マリアニスト家族評議会から3か国語で全てのマリアニスト家族に送付
- 9月10日：拡大総長評議員会、マリア会総長André-Joseph Fétiş師からゾーン議会の議長あて送付

メールアドレスの変更

新国際名簿2020-2021年版(75号)と一緒に新e-mailアドレスが出されます。

総本部の日程

- 10月9~28日：総長評議員会が東アフリカ地区を訪問します。